

橘副大臣「いわて・三陸けせん希望ストリート 2016」

ぶら下がり会見録

(平成28年9月30日(金) 13:45～13:48 於) 東京都千代田区)

1. 質疑応答

(問) 今日のイベントを巡られてみて、どのような印象をお持ちになりましたか。

(答) 挨拶でも申し上げたんですが、まず本当に頑張っていたいただいて、もう一度仕事を立ち上げていただいて、その中でものはいろいろ工夫をされて、今までとはまた違った商品をつくられたり、本当に自分たちのものをよりブラッシュアップされているという、そういう意気込み等を強く感じています。そういうものをこういう形で非常にたくさんの方々に見てもらうことによって、またいろんないいアイデアとか、感想とかあると思うんですね。そういうものを受けて、さらにいろんな意味でまた商品開発してもらうのもいいでしょうし、あともう一つはやっぱりこういう形で多くの方に訴えかけるということで、会頭さんもおっしゃっていたけれども、やはり風化させないということでも大変意味のあることだというふうに思っています。

(問) まだまだ販路拡大が課題のところがあると思うんですけれども、それについての受止めは。

(答) そうですね。もちろん今までお付き合いあったところを取り戻していくということも大事ですけれども、やっぱり新しい品物とか新しいコンセプトのものでまた「あっ、こんなのもあるんだ」ということで、新しい販路を作っていくということも大事だと思うんですね。そういう意味で、こういったフェアとか物販という催しは非常に意味があるかと思います。

(問) 震災から5年半が過ぎましたが、まだまだ現地ではちょっとまだ抵抗あると思うんですけれども、国としてはどのような対処をされていきたいなという。

(答) そうですね、これ土地と、岩手でいうと宮古から南の方、この間から、副大臣の立場になってから拝見したんですけれども、今お話のあるように、進んでいる部分とまだそこまで至っていない部分というのが少しやっぱり出てきていると思うんですね。

進んでいるところは、是非さらにとということなんですけれども、むしろまだちょっと見えていない部分をやっぱり見えるようにしていくというのかな。それは住まいの問題であっても、いろいろな生業の問題でもそうだと思いますが、やっぱり見えていない部分を早く見える、あるいは、いつどうなるというところがもっと皆さんに分かってもらえるようにしていくことがすごく大事だと

思うんですね。

例えば、三陸鉄道・山田線みたいにこうなるんだよというのが分かってくると、なっていくんだという感じがするじゃないですか。何かそういうやっぱり何て言うか、建っていくとか、直されていくとか、そういうことがやっぱりすごく大事なのかなというふうには思っています。

そういう中で、皆さんに元気出してもらって、その元気でまたさらに地域が前へ進むという循環になってくれるといいなと。そんな中で、だから手が届いていない部分を特に後押ししていきたいなという、そんな思いです。さっきは応援もありがとうございます。またどうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。

(以 上)